

# <先史時代>

推定年代	地質年代	史的年代	考古年代	人類	道具	社会・経済・文化
450万年前	更新世 (洪積世)	先史	旧石器	<b>猿人</b> *ラミダス猿人 ○現在のところ最古の猿人 *アウストラロピテクス ○南アフリカ *ホモ=ハビリス ○東アフリカで発見	*礫石器使用 ○簡単な打製石器	*狩猟・採集・漁労獲得経済 *ホルド(群)形成 ○旧石器時代を通じての特徴
150万年前				<b>原人</b> *ピテカントロプス ○ジャワ島トリニールで発見 *北京原人 ○周口店で発見 *ハイデルベルク人 ○ドイツ南西部で発見	*握斧(ハンド・アックス)使用 ○加工した石核石器 *言語や火の使用 ○北京原人の火使用確実 *川近くの野外や洞穴に居住	
20万年前				<b>旧人</b> *ネアンデルタール人 ○西ドイツで発見	*剥片石器使用 ○剥片をナイフ等に加工 *食料獲得のため罌使用 *毛皮の衣服や炉の使用	*埋葬など宗教儀礼を行う ○精神文化の発生
4万年前	完新世 (沖積世)	新史	新石器	<b>新人</b> 現代人と同種の現世人類 *クロマニヨン人 ○南フランスで発見。 *周口店上洞人 ○河北省周口店で発見 *グリマルディ人 ○北西イタリアで発見。黒人祖型	*石刃石器使用 *骨角器・細石器使用 ○鋸や槍に使用	*多産・狩猟成功祈る呪術信仰 ○女性裸像(石のヴィーナス) →地母神信仰と関連 ○洞穴絵画 { スペインのアルタミラ フランスのラスコー *副葬品を添えて屈葬で埋葬
1万年前				<b>中石器</b> ○材木切り倒しに効果大 ○木造小屋・丸木舟・橈製作	*岩絵 ○イベリア半島など生活記録	
9千年前				*西アジア中心に彩文土器文化圏 ○彩文土器使用 ○地母神信仰	*磨製石器 ○石臼・石皿・磨製石斧等 *土器・織物 ○農業の普及などで広がる	*食糧生産革命→生産経済 ○前7000年頃農耕牧畜開始 ○初期は略奪農法・乾地農法 { イラクのジャルモ パレスティナのイエリコ *巨石記念物 ○英のストーン=ヘンジ有名 ○ドルメン 卓状 ○メンヒル 垂直に立てる ○ストーン=サークル 環状 *宗教はトーテミズム・アニミズム・シャーマニズム

## 人類

霊長類ヒト科・文化を持った霊長類と定義  
 森林の減少→木から降りる→二足歩行→手使用→脳発達→道具の製作・言語の使用・火の使用

- 人種** 人類を**体質**で分類。黒色(ネグロイド)・黄色(モンゴロイド)・白色(コーカソイド)人種  
 →科学的に不正確な分類概念であることが明らかになり、人類学などでは用いられなくなった
- 民族** 人類を**文化**で分類。**氏族**(祖先が同じ集団)→**部族**(数個の氏族からなる最初の政治的単位)  
 →言語・社会経済生活・習俗などを共有する集団であるが、固定的なものではない
- 語族** 人類を**言語**の特徴で分類

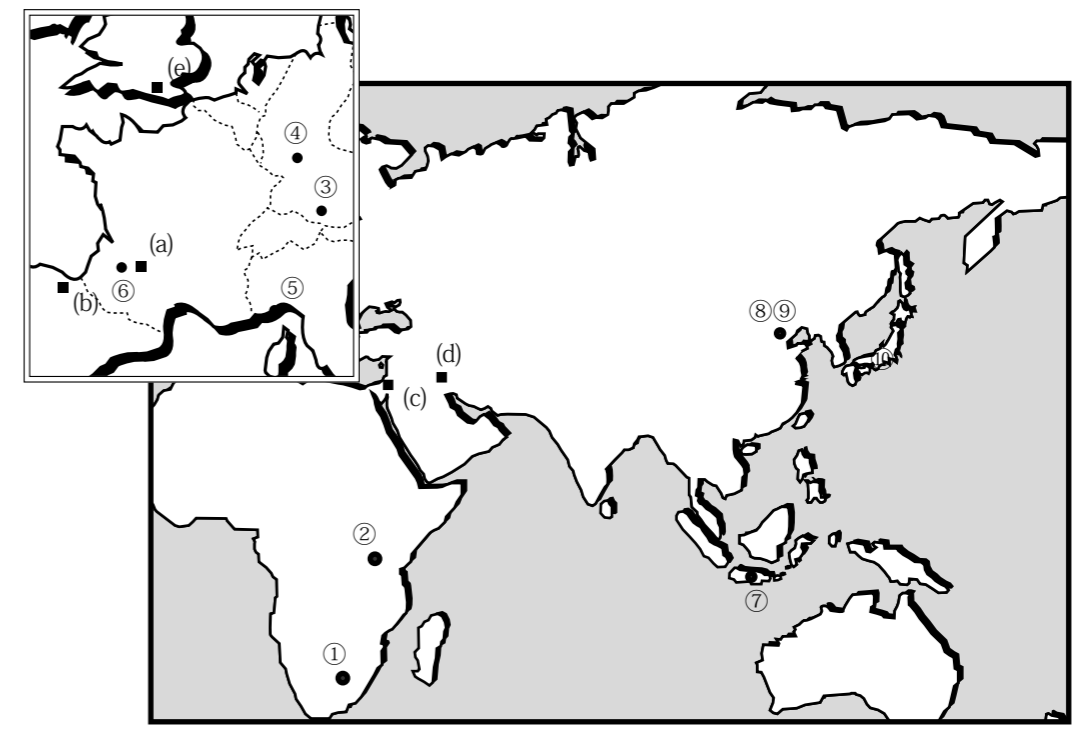
インド=ヨーロッパ	東方派 インド・イラン(アーリア)
セム	西方派 スラヴ・チュートン・ラテン・ギリシア
ウラル	フィンランド・ハンガリー・エストニア
アルタイ	トルコ・モンゴル・ツングース・朝鮮
シナ=チベット	中国・チベット・ビルマ・タイ
南アジア	マライ・インドネシア・タガログ
マライ=ポリネシア	ヴェトナム・クメール・モン
ドラヴィダ	タミル

## 文明

考古年代では金属器時代に発生  
 史的年代では歴史時代に発生

- 金属器** 使用 青銅器から鉄器へと移行
- 文字** 使用 歴史時代の開始
- 都市** の発生 神殿を中心・国家の開始

階級の分化 灌漑農業→生産力増大・共同作業の必要→分業で戦士・神官発生

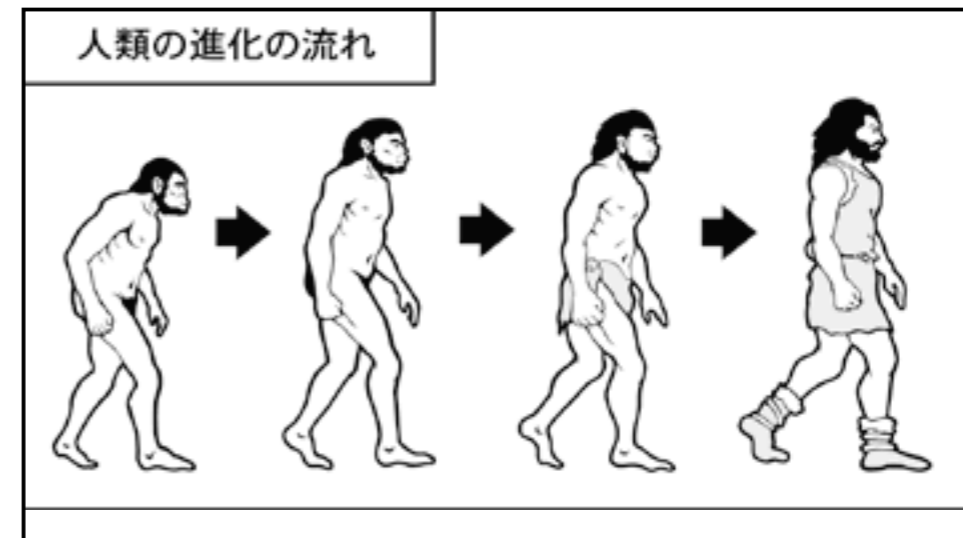


- ①アウストラロピテクス 南アフリカのトランスヴァールで発見
- ②ホモ=ハビリス 猿人と原人の中間。東アフリカのタンガニーカのオルドバイ峡谷で発見
- ③ハイデルベルク人 原人。ドイツ南部で発見
- ④ネアンデルタール人 旧人。ドイツのライン流域で発見
- ⑤グリマルディ人 新人。北イタリアで発見
- ⑥クロマニヨン人 新人。フランスのヴェーゼル川流域で発見
- ⑦ピテカントロプス ジャワ原人・ジャワ島トリニールで発見
- ⑧シナントロプス 北京原人・北京郊外の周口店で発見
- ⑨周口店上洞人 新人。北京郊外周口店で発見
- ⑩浜北人 新人。日本の静岡県で発見
- aラスコー bアルタミラ cジャルモ dイエリコ eストーン=ヘンジ

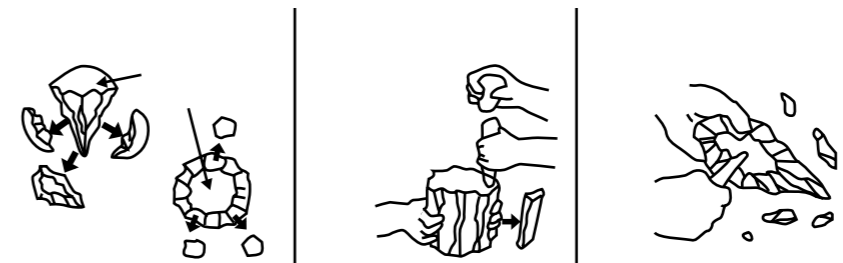
先史時代の用語解説

- 更新世（洪積世） \*地質学上新生の後半から現代までを**第4紀**といい、その前半の約170万年前から1万年前の氷河時代を更新世という。この時代に人類の進化が起こった。
- 氷河期（氷期） \*更新世（氷河時代）の間に**4回**起こった、特に氷河が発達・拡大して寒冷化し、世界的に海面低下が起こった時代。その間の比較的温暖な時代が**間氷期**
- 完新世（沖積世） \*新生代第4紀の後半。最後の氷河期が終わった約**1万年前**から現在までの期間。人類が大発展を遂げた。**後氷期**ともいう。
- 旧大陸 \*ヨーロッパ人によるアメリカ大陸（新大陸）発見以前に知られていた大陸。アジア・ヨーロッパ・アフリカの三大陸の称。旧世界。
- 類人猿 \*オランウータン・チンパンジー・ゴリラの人に近い猿。ヒトニザルともいう。
- 化石人類 \*化石からその存在が知られている更新世の人類の総称。発達段階によって猿人・原人・旧人・新人に分ける。
- 猿人 \*最古の化石人類。進化の道が類人猿と分かれたのは、500万年前と推定される。しかし明確に類人猿と異なる進化の道（道具の使用による狩猟・採集・漁労生活）を歩み始めたのは、氷河時代の到来からと想定されている。
- 原人 \*約150万年前に出現した人類。猿人に次ぐ人類進化の第二段階
- 旧人 \*約30万年前～3万5千年前まで存在した人類。原人に次ぐ人類進化の第三段階。新人の前段階と考えられていたが、新人とは別系統の人類であり、能力的にもほぼ新人と等しかったものの、新人との生存競争に敗北して滅亡したとする説が有力となっている。
- 石核石器 \***打製石器**を大別すると石核石器と剥片石器となるが、そのうち原石の一部をはいで、石核を利用する石器を石核石器という。自然石を打ちかいただけの、最も原始的な**礫石器**は猿人が使用。原人は手頃の大きさの石を、にぎり持つくらいに打ちかいて、一端を鋭くとがらせた**握斧**の使用を開始した。
- 剥片石器 \*原石から剥がされた剥片の方を用いた石器。用途にあわせて様々に考案されたが、特に新人は、鋭いナイフ機能を持つ**石刃**を考案した。
- 骨角器 \*獣・鳥・魚などの骨・角・牙などで作った器具・装身具など。釣り針・鏃・鋸・櫛・針などがある。後期旧石器時代以後使用された。
- 細石器 \*剥片石器の小型のもの（2-3センチのものが多い）を、木や骨の柄にはめ込み、矢や槍などに利用。中石器時代から新石器時代の初めに盛んに用いられた。
- 磨製石器 \*砂や砥石で磨いた石器で新石器時代の指標とされる。**磨製石斧**が代表。
- 土器 \*粘土を焼いてつくった器や道具。赤・黒・白などで彩色した**彩文土器**が、西アジアで用いられ、黄河中流域にいたる農耕地帯にまで普及した。
- 略奪農法 \*初期農法の一つで、肥料を施さない農法をいう。
- 乾地農法 \*初期農法の一つで、天水（雨や雪）に頼る農法をいう。
- ジャルモ \*前8000～前6000年の間と推定される、イラク東部の初期農耕遺跡。
- イエリコ \*パレスティナ地方の死海北側に存在。最古の農耕牧畜生活の遺跡の一つ。
- シャーマニズム \*シャーマン（巫覡）が超自然的存在との交流によって宗教行為などを行う
- アニミズム \*あらゆる事物に神霊の存在を認め、それを崇拜する信仰
- トーテミズム \*社会の各集団が特定のトーテム（動植物などの霊）と関係を持つ信仰

史料編



【石刃石器の製作法】



石刃は新人が使用。天然ガラスである黒曜石を使用したものは、非常に鋭利である。

【石のヴィーナス】



別名「女性裸像」。女性の性的特徴を強調し、多産豊穡を祈った呪術的な性格を持つものである。地母神信仰との関連が指摘されている。